

なぜ必要リソースが少ないのか？

様々な環境に適応する IoTA

様々な環境で動作することを想定している IoTA は、セキュリティの導入に対し、最低限の仕組みで最大限の効果を発揮するように設計されています。IoT は TCP の代わりに UDP 上で動作する独自プロトコルを採用。IoT 通信におけるプロトコル設計を最適化する事で、必要スペックを ROM 64byte / RAM 16KByte まで下げることに成功しています。そのため、リソースの限られた低コストなデバイスへの搭載は勿論、現在運用中のデバイスにおいても追加のハードウェア資産やメモリを必要とせず、セキュアという付加価値を提供可能です。IoT は様々な SBC において動作実績があります。以下はその一例です。



mbed LPC-1768



Raspberry-Pi Zero W



ESP8266



Leafony STM32

動作実績

低スペック SBC を使用したセキュア監視カメラ

mbed LPC-1768 + 佐鳥電機様 920MHz 通信モジュールによる
画像データのセキュアデータ送信を実装

LPC1768 MCU
High performance ARM[®] Cortex[™]-M3 Core
96MHz, RAM 32KB, FLASH 512KB



GPS 情報を使用した GPS 見守りセンサー

Leafony + KDDI 様 LTE-M モジュールによる
GPS 情報トラッキングシステム

STM32L496VGT6
Cortex-M4/80MHz
Flash:1024KB, RAM:320KB

ZETA を使用したオフィス入退室管理

mbed LPC-1768 + ZETA 920MHz 通信モジュールによる
入退室情報のセキュア送信を実装

LPC1768 MCU
High performance ARM[®] Cortex[™]-M3 Core
96MHz, RAM 32KB, FLASH 512KB

